エコアクション21

環境活動レポート

2018年度

運用期間　2018年4月～2018年6月

2018年7月13日作成

1. 事業の概要

商　号	ひびき灘開発株式会社	
代表者名	代表取締役社長	江本　均
環境管理責任者	常務取締役	荒牧　滋美
連絡担当者名	総務課担当係長	船津　孝弘　（連絡先　093—771－6131） ホームページ　http//www.hibikidev.co.jp
所在地	本社 響灘事業所 日明事業所 エコタウンセンター 響灘ビオトープ	北九州市若松区浜町一丁目18番1号 北九州市若松区響町三丁目29番 北九州市小倉北区西港町97番3号 北九州市若松区向洋町10番地20 北九州市若松区響町一丁目126—1
認証・登録範囲	全部署、全活動	
設　立	1973年2月21日	
資本金	13億6,550万円 （公共51.1%、民間48.9%）	

事業の規模

	2015年度	2016年度	2017年度
売上高（百万円）	2,901	2,755	2,639
従業員数（人）	72	72	70

事業年度	4月1日～翌年3月31日 今回の活動レポートの対象期間は、 2018年4月～2018年6月
許可等	産業廃棄物処分業、宅地建物取引業
事業活動の内容	① 産業廃棄物及び土砂等の埋立処分事業 ② 土地分譲事業（土地賃貸、土地利活用等を含む） ③ エコタウンセンターの運営管理業務 指定管理施設（北九州市エコタウンセンター） ④ 響灘ビオトープの運営管理業務 指定管理施設（北九州市響灘ビオトープ）

2. 会社及び社員の行動指針

私たちの信条

[会社の経営基本方針]

- 第三セクターとしての使命感をもち環境創造と先進の都市空間の開発をめざします。
- 新たな事業分野に挑戦し、企業の未来を切り開きます。
- 地域との交流に努め信頼される企業市民をめざします。

[社員の行動規範]

- 進取の精進をもって可能性に挑戦します。
- 自己研鑽に努め、能力と人格を磨きます。
- 規律を守り、信頼と協力のある職場をつくります。
- お客様に公平・親切に接し、人間味のある仕事をします。
- 健全な生活態度を保ち社会的信用を高めます。

3. 環境経営方針

[環境理念]

廃棄物処分事業および土地分譲事業等の取り組み、ならびに資源循環・自然共生・低炭素化事業への参画を通じて、持続可能な社会づくりに貢献します。

[環境経営方針]

1. 当社事業に関わる環境関連法規及びその他の環境関連の要求などを明確にし、遵守します。

2. 事業活動における省エネルギー、省資源、リサイクルの推進、グリーン調達に積極的に取り組み、環境負荷の低減に努めるとともに、環境汚染の予防を図ります。

3. 廃棄物処分事業における適正な廃棄物の受入管理の徹底に努め、地域環境に配慮した処分場の運営方法を採用するとともに、長期・安定的な処分場の確保を積極的に推進します。

4. 処分場およびその周辺地域における緑化や美化活動を積極的に推進し、より良い地域環境の実現に貢献します。

5. エコタウンセンターでの活動等を通じ、一般市民に対する環境啓発活動を推進します。

6. 響灘ビオトープに生息している生物の多様性を確保しながら、一般市民に対する自然環境啓発活動を推進します。

7. ひびきソーラーパワー発電事業を通して、二酸化炭素排出量の削減に貢献します。

8. 技術面、経済面を考慮した上で、環境経営目標を定め、環境経営システムの継続的な改善を図ります。

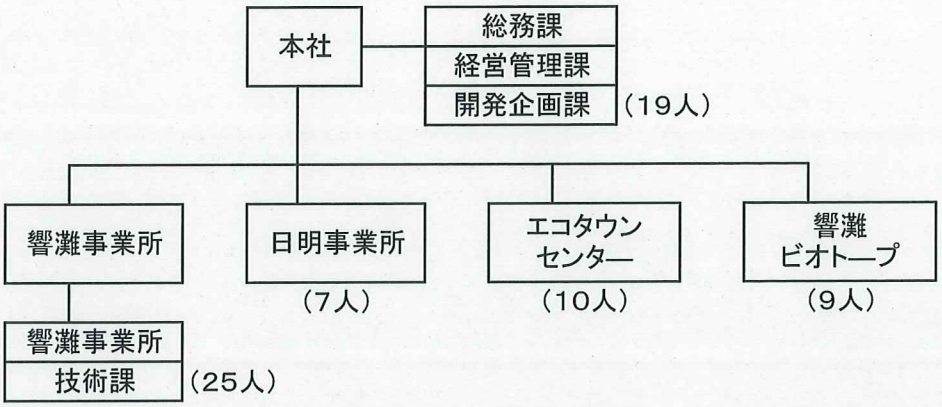
9. この環境経営方針を全従業員に周知させるとともに、従業員が環境保全を意識した活動ができるよう、従業員の教育を行います。

10. この環境経営方針は一般に公開します。

平成30年7月1日
ひびき灘開発株式会社
代表取締役社長　江本　均

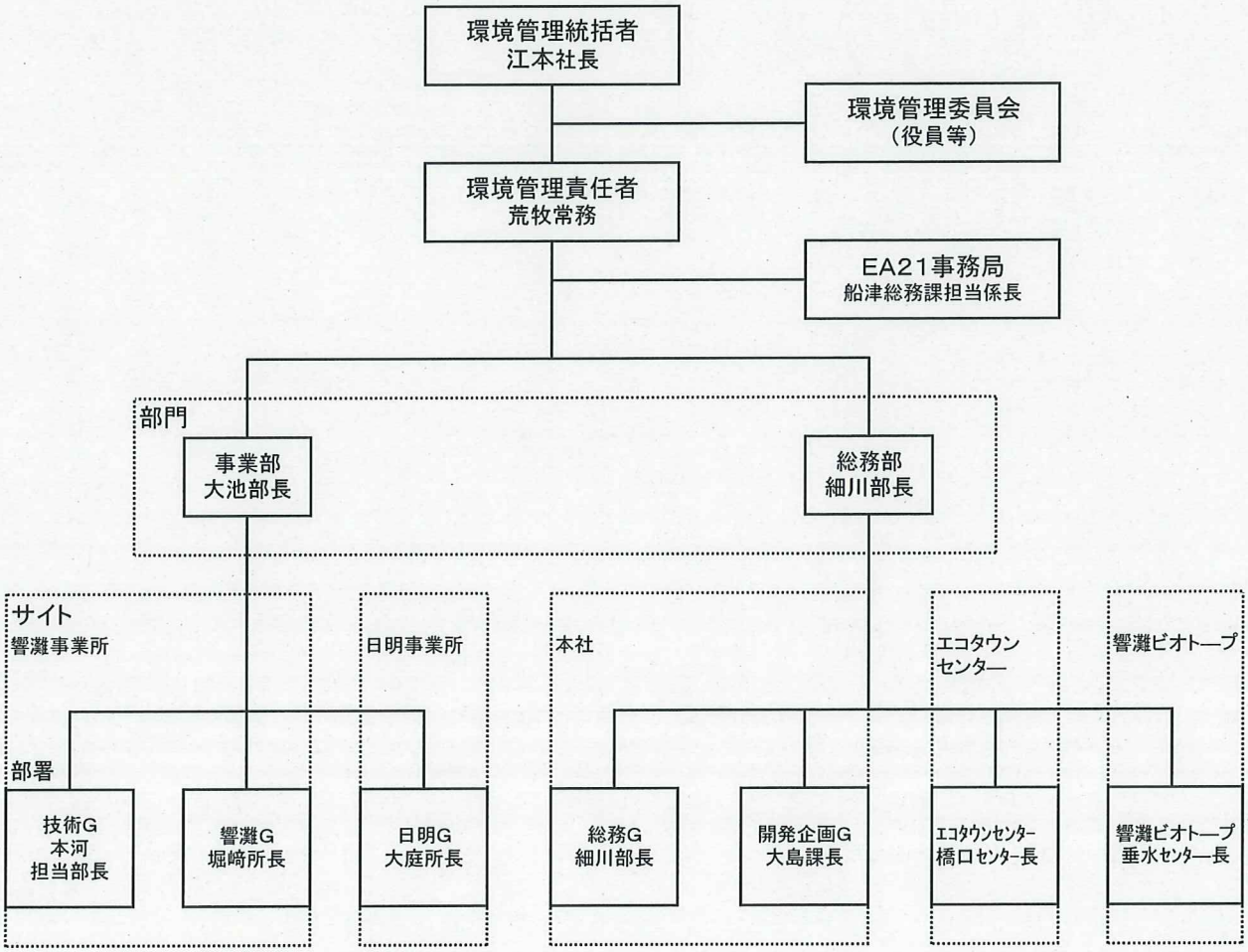
4. 組織図及び認証・登録範囲

認証・登録範囲は、以下のとおりです。　　2017年4月1日現在



5. 実施体制図

実施体制図は、以下のとおりです。



6. 産業廃棄物関連事業

6-1. 許可の内容

許可の内容は、以下のとおりです。

（1） 産業廃棄物処分業
① 許可番号　第07630004184号
② 許可年月日　2017年6月20日
③ 許可期限　2022年6月19日
④ 事業の区分　最終処分場 （埋立処分）
⑤ 産業廃棄物の種類
燃え殻、汚泥、廃プラスチック類（自動車等破砕物を含む）、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず（自動車等破砕物を含む）、ガラスくず（自動車等破砕物を含む）、鉱さい、がれき類、家畜ふん尿、家畜の死体、ダスト類、政令第13号廃棄物
以上16種類（水銀使用製品産業廃棄物及び水銀ばいじん等を含む）
（石綿含有産業廃棄物を含み、特別管理産業廃棄物であるものを除く）

6-2. 施設の状況

施設の状況は、以下のとおりです。

（1） 響灘西部廃棄物処分場（3号地）　自社処分場
① 施設の種類　管理型最終処分場
② 産業廃棄物の種類
燃え殻、汚泥、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず
ガラスくず、鉱さい、がれき類、家畜ふん尿、家畜の死体、ダスト類、政令第13号廃棄物
以上16種類
③ 処理能力
埋立地面積　294，202m2
埋立地容量
全体容量　4，206，530m3
内現区画容量　530，530m3
残余容量　213，000m3

（2） 響灘西地区廃棄物処分場（2区画）　公共処分場
① 施設の種類　管理型最終処分場
② 産業廃棄物の種類
燃え殻、汚泥、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、動植物性残さ、ゴムくず、金属くず
ガラスくず、鉱さい、がれき類、家畜ふん尿、家畜の死体、ダスト類、政令第13号廃棄物
以上16種類
③ 処理能力
埋立地面積　371，000m2
埋立地容量　4，571，000m3
残余容量　1，354，000m3

（3） 北九州市日明積出基地
① 産業廃棄物の種類
燃え殻、汚泥、廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラスくず、鉱さい、がれき類、ダスト類
以上9種類
処理能力　ストックヤ―ド面積　2，160m2

6-3. 搬入量

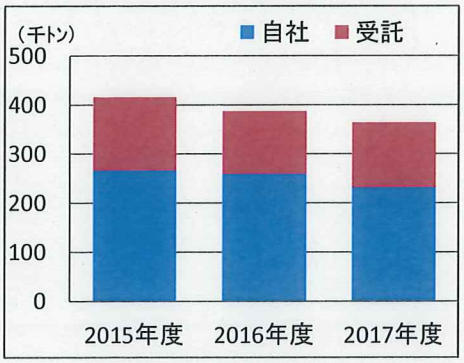
直近3年間の搬入量は、以下のとおりです。

（トン）

区分		2015年度	2016年度	2017年度
自社	産業廃棄物	241,858	196,159	222,762
	土砂等	25,051	63,782	9,642
	計	266,909	259,941	232,404
受託	産業廃棄物	81,524	54,777	69,386
	土砂等	2,948	8,789	550
	一般廃棄物	65,393	64,038	62,825
	計	149,865	127,604	132,761
合計		416,774	387,545	365,165

①自社事業は、当社独自で産業廃棄物処分場を所有し運営している事業
②受託事業は、北九州市の公共処分場の管理委託を受けている事業

企業の廃棄物資源化が進展し、受入廃棄物の量は減少傾向にある



6-4. 適正な廃棄物の受入管理

適正な廃棄物の受入管理は、以下のとおりです。

事前審査
契約

事前審査・契約
① 搬入予定量（月別）、発生工程図、分析試験結果による性状等の確認を行う。
② 必要に応じて、現地踏査等を行う。

受入時確認

受入時
③ 計量員が目視検査で、受入基準（個別基準）に適合しているか確認を行う。
④ 展開検査で、受入基準（個別基準）に適合しているか確認を行う。

展開検査実績　（検体／年）

	2016年度	2017年度
響灘西部廃棄物処分場	500	500
響灘西地区廃棄物処分場	500	500
日明積出基地	500	500

展開検査の様子

抜取検査の様子

抜取検査

⑤ 必要に応じて、
抜取検査で、受入基準（判定基準）に適合しているか確認を行う。

抜取検査実績　（検体／年）

	2016年度	2017年度
響灘西部廃棄物処分場	102	112
響灘西地区廃棄物処分場	115	95
日明積出基地	22	19

埋立処分

覆土

契約内容の
再確認
（随時）

⑥ 契約内容の再確認（随時）
産業廃棄物処分契約締結事業者を訪問し、発生工程等の再調査を行う。

6-5. 地域環境に配慮した処分場の運営方法

地域環境に配慮した処分場の運営方法は、以下のとおりです。

（1） 粉塵対策
① 飛散抑制作業
a. 散水車を使用して、路上散水を行う。
b. ロードスイーパー車を使用して、路面に付着した粉塵を掃き込みを行う。
c 造成後の仕上面に、スラグの敷き均しを行う。
② 降下ばいじん量による監視
a. 5点の定点観測で、降下ばいじん量の測定を毎月行う。

散水作業の様子

（2） 排水処理施設からの放流水管理
処理水の分析結果が排水基準を満たしていれば、外海に放流を行う。

排水処理施設の外観

分析作業の様子

（3） 維持管理状況の開示
ホームページに処分場管理情報の公表を毎月行う。

6-6. 長期・安定的な処分場

長期安定的な処分場を確保し、効率的で安全・安心な嵩上事業を行う。

嵩上げの断面図

7. サイト別の環境活動

7-1. 本社

施設名
ひびき灘開発株式会社　本社
所在地
北九州市若松区浜町一丁目18番1号
社員数　　19人
床面積　　842m2

（1） 当年度及び中期環境経営目標

環境経営目標		単位	2016年度（基準年度）	環境経営目標		
				2018年度	2019年度	2020年度
二酸化炭素排出量削減		kg-CO2	38,923	38,170（2%削減）	37,426（4%削減）	36,611（6%削減）
	電力使用量削減	kWh	66,168	64,900（2%削減）	63,600（4%削減）	62,200（6%削減）
	ガソリン使用量削減	リットル	2,961	2,900（2%削減）	2,850（4%削減）	2,790（6%削減）
	都市ガス使用量削減	m3	40	40（-）	40（-）	40（-）
水使用量削減		m3	275	270（2%削減）	264（4%削減）	259（6%削減）
環境に有益な活動						
	本社周辺の清掃	回/週	1	1（-）	1（-）	1（-）
	地元漁協への清掃活動協力	回/年	2	2（-）	2（-）	2（-）
	処分場見学会の実施	回/年	2	2（-）	2（-）	2（-）
	ひびきソーラーパワー発電事業	kWh	2,608,970	2,600,000（-）	2,600,000（-）	2,600,000（-）

備考）　①廃棄物の排出はありません。
②化学物質の使用はありません。
③自らが生産・販売・提供する製品はありません。
④電気の二酸化炭素排出係数は、九州電力の2016年度調整後0．483（kg-CO2/kwh）を用いた。
⑤都市ガスの二酸化炭素排出係数及び単位発熱量は、それぞれ西部ガスの2016年度0.0509（kg-CO2/kwh）及び45.0（MJ/Nm3）を用いた。

（2） 環境経営目標実績（運用期間）

2018年4月～6月の運用期間中の目標における実績は、以下のとおりです。

項目		単位	2016年度（基準年度）	環境経営目標		実績	環境経営目標達成可否	
				2018年度	2018年度 4月～6月	2018年度 4月～6月	達成率 実績/目標	（判定）
二酸化炭素排出量削減		kg-CO2	38,923		9,588	7,999		
	電力使用量削減	kWh	66,168	64,900	16,300	13,734	84.3%	○
	ガソリン使用量削減	リットル	2,961	2,900	730	581	79.6%	○
	都市ガス使用量削減	m3	40	40 (-)	10 (-)	8	—	—
水使用量削減		m3	275	270	94	80	85.1%	○
環境に有益な活動								
	本社周辺の清掃	回/週	1	1 (-)	1 (-)	1	—	—
	地元漁協への清掃活動協力	回/年	2	2 (-)	0 (-)	0	—	—
	処分場見学会の実施	回/年	2	2 (-)	1 (-)	1	—	—
	ひびきソーラーパワー発電事業	kWh	2,608,970	2,600,000 (-)	650,000 (-)	780,540	—	—

備考 ） ①判定は、目標達成ならば ○ 目標未達成ならば ×

（3） 環境経営計画及び取組結果とその評価、今年度末までの取組内容

取組計画	評価（評価と年度末までの取組内容）	
電力使用量削減 ・サーバ・省エネ仕様に取替え ・使用していない会議室や台所など、照明は普段消灯し、使用時のみ点灯 ・エアコンの温度設定は、季節に応じて調整	評価	目標に対して、15.7%削減し目標を達成した。 要因は、使用していない会議室や台所などの照明を、普段消灯し、使用時のみ点灯することを徹底したことによるもの。
	年度末までの取組内容	引き続き節電に努める。
ガソリン使用量削減 ・エコ運転及びアイドリングストップの励行 ・排気量の小さい車両から使用 ・同一移動先への相乗り励行	評価	目標に対して、20.4%削減し目標を達成した。 要因は、排気量の小さい車両から使用したことによるもの。
	年度末までの取組内容	引き続きガソリン使用量削減に努める。
水使用量削減 ・水道水の適正使用 ・蛇口付近への節水表示 ・漏水のチェック	評価	目標に対して、14.9%削減し目標を達成した。 要因は、社員一人ひとりの節水意識が高まったことによるもの。
	年度末までの取組内容	引き続き節水に努める。

（4） その他

① ひびきソーラーパワー発電事業

埋立完了後の廃棄物処分場跡地の有効活用及び再生可能エネルギーの利用促進を目的として、太陽光発電事業を行う。

発電規模	1，990kw
敷地面積	31，000m2
太陽光パネル	8，008枚

（kwh）

	2016年度	2017年度
九州電力㈱への売電量	2,608,970	2,582,360

② 美化活動

a. 本社周辺の清掃

社会貢献活動の一環として、本社周辺の環境美化活動を行う。

本社周辺の清掃活動の様子

b. 地元漁協への清掃活動協力

脇之浦漁港及び脇田漁港の清掃活動にそれぞれ年1回参加・協力し、地域の方々との交流を行う。

地元漁協への清掃活動の様子

③ その他

a. 処分場見学会の実施

見学会では、廃棄物の受入から処分までの流れ、処分場の規模や構造、埋立の方法や埋立の進捗状況、排水処理等の環境対策を説明している。

処分場見学会の様子

b. リサイクルの推進（古紙の回収）

古紙回収の状況は、以下のとおりです。

（kg）

古紙の回収量	2016年度	2017年度
本社	455	190
響灘事業所	913	791
日明事業所	283	239
エコタウンセンター	316	255
響灘ビオトープ	158	225
計	2,125	1,700

7-2. エコタウンセンター

施設名　　北九州市エコタウンセンター
所在地
北九州市若松区向洋町10番地20
社員数　　10人
床面積　　2，672m2

（1） 当年度及び中期環境経営目標

環境経営目標		単位	2016年度（基準年度）	環境経営目標		
				2018年度	2019年度	2020年度
二酸化炭素排出量削減		kg-CO2	95,288	93,400（2%削減）	91,500（4%削減）	89,500（6%削減）
	電力使用量削減	kWh	194,639	190,700（2%削減）	186,900（4%削減）	183,000（6%削減）
	ガソリン使用量削減	リットル	247	242（2%削減）	237（4%削減）	232（6%削減）
	灯油使用量削減	リットル	270	265（2%削減）	259（4%削減）	254（6%削減）
	LPガス使用量削減	m3	5	5（-）	5（-）	5（-）
水使用量削減		m3	594	582（2%削減）	570（4%削減）	558（6%削減）
環境に有益な活動						
	来館者数増加	人	29,548	30,100（2%増加）	30,700（2%増加）	31,300（6%増加）

備考）　①廃棄物の排出はありません。
②化学物質の使用はありません。
③自らが生産・販売・提供する製品はありません。
④電気の二酸化炭素排出係数は、九州電力の2016年度調整後0．483（kg-CO2/kwh）を用いた。

（2） 環境経営目標実績（運用期間）
2018年4月～6月の運用期間中の目標における実績は、以下のとおりです。

項目		単位	2016年度（基準年度）	環境経営目標		実績	環境経営目標達成可否	
				2018年度	2018年度 4月～6月	2018年度 4月～6月	達成率 実績/目標	（判定）
二酸化炭素排出量削減		kg-CO2	95,288		23,348	14,303		
	電力使用量削減	kWh	194,639	190,700	47,700	29,120	61.0%	○
	ガソリン使用量削減	リットル	247	242	60	103	171.7%	×
	灯油使用量削減	リットル	270	265	66	0	0.0%	○
	LPガス使用量削減	m3	5	5（-）	2以下（-）	0	—	—
水使用量削減		m3	594	582	145	214	147.6%	×
環境に有益な活動								
	来館者数増加	人	29,548	30,100	7,500	6,116	81.5%	×

備考 ）　①判定は、目標達成ならば　○　目標未達成ならば　×

（3） 環境経営計画及び取組結果とその評価、今年度末までの取組内容

取組計画	評価（評価と今年度末までの取組内容）	
電力使用量削減 ・使用していない会議室や台所など、照明は普段消灯し、使用時のみ点灯 ・エアコンの温度設定は、季節に応じて調整	評価	目標に対して、39.0%削減し目標を達成した。 要因は、使用していない会議室や台所などの照明を、普段消灯し、使用時のみ点灯することを徹底したことによるもの。
	年度末までの取組内容	引き続き節電に努める。
ガソリン使用量削減 ・エコ運転の励行 ・アイドリングストップの励行 ・同一移動先への相乗り励行	評価	目標に対して、71.7%増加し、目標未達成となった。 要因は、施設のPR活動の一環として、市内小学校へちらし配付を行ったことによるもの。
	年度末までの取組内容	引き続きガソリン使用量削減に努めるが、暫くの間静観する。
灯油使用量削減 ・スイッチのON・OFFをこまめに行う	評価	目標どおり達成した。 季節柄、この時期は、灯油の使用はない。
	年度末までの取組内容	このまま、継続する。
水使用量削減 ・屋上庭園の散水を、タイマーを設置し計画的に行う ・トイレを節水タイプ用に取替え	評価	目標に対して、47.6%増加し、目標未達成となった。 要因は、屋上緑化活動の再開に伴う、散水によるもの。
	年度末までの取組内容	引き続き節水に努めるが、暫くの間静観する。
来館者数増加 ・エコタウン祭り、ワークショップ等の実施、PRの強化	評価	目標に対して、18.5%減少し、目標未達成となった。 要因は、天候不順等による大口来館予定者のキャンセルが相次いだことによるもの。
	年度末までの取組内容	引き続き来館者数増加に努めるが、暫くの間静観する。

（4） イベント情報

① ブックカバー作り　　4月21日実施

② エコバック作り　　5月26日実施

7-3. 響灘ビオトープ

施設名　　北九州市響灘ビオトープ
所在地
北九州市若松区響町一丁目126—1
社員数　　9人
床面積　　570m2

（1） 当年度及び中期環境経営目標

環境経営目標		単位	2016年度（基準年度）	環境経営目標		
				2018年度	2019年度	2020年度
二酸化炭素排出量削減		kg-CO2	20,804	20,387（2%削減）	19,971（4%削減）	19,555（6%削減）
	電力使用量削減	kWh	33,995	33,315（2%削減）	32,635（4%削減）	31,955（6%削減）
	ガソリン使用量削減	リットル	845	828（2%削減）	811（4%削減）	793（6%削減）
	軽油使用量削減	リットル	923	904（2%削減）	886（4%削減）	867（6%削減）
水使用量削減		m3	272	267（2%削減）	261（4%削減）	255（6%削減）
環境に有益な活動						
	来館者数増加	人	18,224	20,000（10%増加）	20,410（12%増加）	20,770（14%増加）

備考）　①廃棄物の排出はありません。
②化学物質の使用はありません。
③自らが生産・販売・提供する製品はありません。
④電気の二酸化炭素排出係数は、九州電力の2016年度調整後0．483（kg-CO2/kwh）を用いた。

（2） 環境経営目標実績（運用期間）
2018年4月～6月の運用期間中の目標における実績は、以下のとおりです。

項目		単位	2016年度（基準年度）	環境経営目標		実績	環境経営目標達成可否	
				2018年度	2018年度 4月～6月	2018年度 4月～6月	達成率 実績/目標	（判定）
二酸化炭素排出量削減		kg-CO2	20,804		3,724	3,422		
	電力使用量削減	kWh	33,995	33,315	5,238	5,346	102.1%	×
	ガソリン使用量削減	リットル	845	828	273	224	82.1%	○
	軽油使用量削減	リットル	923	904	214	122	57.0%	○
水使用量削減		m3	272	267	62	65	104.8%	×
環境に有益な活動								
	来館者数増加	人	18,224	20,000	5,590	5,663	101.3%	○

備考　）　①判定は、目標達成ならば　○　目標未達成ならば　×

（3） 環境経営計画及び取組結果とその評価、今年度末までの取組内容

取組計画	評価（評価と今年度末までの取組内容）	
電力使用量削減 ・使用していない会議室や台所など、照明は普段消灯し、使用時のみ点灯 ・エアコンの温度設定は、季節に応じて調整 ・館内無人時の照明の間引き	評価	目標に対して、2.1%増加し、目標未達成となったが、2016年度実績（基準値）とほぼ同じ。 要因は、節電意識の希薄さによるもの。
	年度末までの取組内容	節電意識の高揚を図り、引き続き節電に努める。
ガソリン使用量削減 ・エコ運転の励行 ・アイドリングストップの励行	評価	目標に対して、17.9%削減し目標を達成した。 要因は、エコ運転の励行によるもの。
	年度末までの取組内容	引き続きガソリン使用量削減に努める。
軽油使用量削減 ・低速運転によるエコ運転の励行	評価	目標に対して、43%削減し目標を達成した。 要因は、低速運転によるエコ運転の励行によるもの。
	年度末までの取組内容	引き続き軽油使用量削減に努める。
水使用量削減 ・食器洗いの際に水を出しっぱなしにしない	評価	目標に対して、4.8%増加し、目標未達成となった。 要因は、節水意識の希薄さによるもの。
	年度末までの取組内容	節水意識の高揚を図り、引き続き節水に努める。
来館者数増加 ・集客イベントを開催する	評価	目標に対して、1.3%増加し、目標を達成した。 要因は、集客イベントの効果が大きい。
	年度末までの取組内容	引き続き来館者数増加に努める。

（4） イベント情報

① コアジサシを誘致するためのデコイを作成する。　4月6日実施

② 講師を招いてニホンミツバチの生態についてお話を聞き、はちみつの味比べを体験する。　4月29日実施

③ ベッコウトンボの個体数調査　　5月5日実施

④ 講師を招いてホタルの生態についてお話を聞き、実際にホタルを観察する。
5月20日実施

⑤ ジャンボタニシの生態について学び、駆除を体験する。　　6月3日実施

⑥ 野鳥観察会 （チュウヒ、カルガモ、オオヨシキリなど17種）　　6月10日実施

⑦ ビオトープの押し花などを使って、UVライトで固まるレジン（樹脂）で、アクセサリーを作る。
6月24日実施

7-4. 日明事業所

施設名　　北九州市日明積出基地
所在地
北九州市小倉北区西港町97番3号
社員数　　7人
床面積　　216m2

（1） 当年度及び中期環境経営目標

環境経営目標		単位	2016年度（基準年度）	環境経営目標		
				2018年度	2019年度	2020年度
二酸化炭素排出量削減		kg-CO2	6,986	6,856（2%削減）	6,715（4%削減）	6,574（6%削減）
	電力使用量削減	kWh	53,018	52,000（2%削減）	50,900（4%削減）	49,800（6%削減）
	ガソリン使用量削減	リットル	52	52（-）	52（-）	52（-）
	LPG使用量削減	m3	13	13（-）	13（-）	13（-）
水使用量削減		m3	421	412（2%削減）	404（4%削減）	395（6%削減）
廃棄物排出量削減		kg	2,520	2,500（-）	2,500（-）	2,500（-）
廃棄物の受入管理強化						
	積荷展開検査	検体数/年	500	500（-）	500（-）	500（-）

備考）　①化学物質の使用はありません。
②自らが生産・販売・提供する製品はありません。
③電気の二酸化炭素排出係数は、北九州パワーの2016年度調整後0．128（kg-CO2/kwh）を用いた。

（2） 環境経営目標実績（運用期間）
2018年4月～6月の運用期間中の目標における実績は、以下のとおりです。

項目		単位	2016年度（基準年度）	環境経営目標		実績	環境経営目標達成可否	
				2018年度	2018年度 4月～6月	2018年度 4月～6月	達成率 実績/目標	（判定）
二酸化炭素排出量削減		kg-CO2	6,986		1,335	1,379		
	電力使用量削減	kWh	53,018	52,000	10,000	10,733	107.3%	×
	ガソリン使用量削減	リットル	52	52（-）	13（-）	0	—	—
	LPG使用量削減	m3	13	13（-）	4以下（-）	1以下	—	—
水使用量削減		m3	421	412	142	84	59.2%	○
廃棄物排出量削減		kg	2,520	2,500	620	0	—	—
廃棄物の受入管理強化								
	積荷展開検査	検体数/年	500	500（-）	120（-）	120	—	—

備考 ）　①判定は、目標達成ならば　○　目標未達成ならば　×

（3） 環境経営計画及び取組結果とその評価、今年度末までの取組内容

取組計画	評価（評価と今年度末までの取組内容）	
電力使用量削減 ・サーバ・省エネ仕様に取替え ・使用していない会議室や台所など、照明は普段消灯し、使用時のみ点灯 ・エアコンの温度設定は、季節に応じて調整	評価	目標に対して、7.3%増加し、目標未達成となった。 要因は、搬入量の大幅な増加に伴い、ストックヤードの換気扇の使用頻度が増えたことによるもの。
	年度末までの取組内容	引き続き節電に努めるが、暫くの間静観する。
水使用量削減 ・水道水の適正使用 ・蛇口付近への節水表示 ・漏水のチェック	評価	目標に対して、40.8%削減し目標を達成した。 要因は、社員一人ひとりの節水意識が高まったことによるもの。
	年度末までの取組内容	引き続き節水に努める。
廃棄物排出量削減 ・廃棄物を分別回収し、リサイクルを推進する。	評価	目標どおり達成した。 要因は、廃材と金属類を分別回収しリサイクルしたことによるもの。
	年度末までの取組内容	このまま継続する。
積荷展開検査 ・手順の周知及び教育 ・朝礼で、検査担当者に対し展開検査の指示を的確に行う。	評価	目標どおり達成した。 要因は、検査担当者に対し、朝礼で的確な指示命令を行ったことによるもの。
	年度末までの取組内容	このまま継続する。

7-5. 響灘事業所

施設名
ひびき灘開発株式会社　響灘事業所
所在地
北九州市若松区響町三丁目29番
社員数　　25人
床面積　　413m2

（1） 当年度及び中期環境経営目標

環境経営目標			単位	2016年度（基準年度）	環境経営目標		
					2018年度	2019年度	2020年度
二酸化炭素排出量削減			kg-CO2	62,614	62,469（2%削減）	62,323（4%削減）	62,178（6%削減）
	電力使用量削減		kWh	307,443	307,443（-）	307,443（-）	307,443（-）
		北九州パワー	kWh	263,010	263,010（-）	263,010（-）	263,010（-）
		九州電力	kWh	44,433	44,433（-）	44,433（-）	44,433（-）
	ガソリン使用量削減		リットル	3,130	3,067（2%削減）	3,005（4%削減）	2,942（6%削減）
	LPG使用量削減		m3	36	36（-）	36（-）	36（-）
水使用量削減			m3	7,641	7,641（-）	7,641（-）	7,641（-）
廃棄物排出量削減			kg	1,900	1,900（-）	1,900（-）	1,900（-）

環境経営目標		単位	2016年度（基準年度）	環境経営目標		
				2018年度	2019年度	2020年度
地域清掃		回/年	24	48（100%増）	48（100%増）	48（100%増）
廃棄物の受入管理強化積荷展開検査						
	響灘西部廃棄物処分場	検体数/年	500	500（−）	500（−）	500（−）
	響灘西地区廃棄物処分場	検体数/年	500	500（−）	500（−）	500（−）

備考）　①化学物質の使用はありません。
②自らが生産・販売・提供する製品はありません。
③電気の二酸化炭素排出係数は、2016年度調整後の北九州パワー0．128（kg-CO2/kwh）、九州電力0．483（kg-CO2/kwh）を用いた。

（2）環境経営目標実績（運用期間）

2018年4月～6月の運用期間中の目標における実績は、以下のとおりです。

項目			単位	2016年度（基準年度）	環境経営目標		実績	環境経営目標達成可否	
					2018年度	2018年度 4月～6月	2018年度 4月～6月	達成率 実績/目標	（判定）
二酸化炭素排出量削減			kg-CO2	62,614		18,937	7,443		
	電力使用量削減		kWh	307,443	307,443	97,655	34,535	—	—
		北九州パワー	kWh	263,010	263,010	84,549	32,168	—	—
		九州電力	kWh	44,433	44,433	13,106	2,367	—	—
	ガソリン使用量削減		リットル	3,130	3,067	743	917	123.4%	×
	LPG使用量削減		m3	36	36	10	9	—	—
水使用量削減			m3	7,641	7,641	1,962	3,369	—	—
廃棄物排出量削減			kg	1,900	1,900	0	48	—	—
地域清掃			回/年	24	48	12	12	100.0%	○
廃棄物の受入管理強化積荷展開検査									
	響灘西部廃棄物処分場		検体数/年	500	500	120	130	—	—
	響灘西地区廃棄物処分場		検体数/年	500	500	120	130	—	—

備考　）　①判定は、目標達成ならば　○　目標未達成ならば　×

（3） 環境経営計画及び取組結果とその評価、今年度末までの取組内容

取組計画	評価（評価と今年度末までの取組内容）	
電力使用量削減 ・使用していない会議室や台所など、照明は普段消灯し、使用時のみ点灯 ・エアコンの温度設定は、季節に応じて調整	評価	目標に対して、64.6%削減し目標を達成した。 要因は、晴天が続いたため排水処理施設の使用頻度が減ったことによるもの。
	年度末までの取組内容	このまま継続する。
ガソリン使用量削減 ・エコ運転の励行。 ・アイドリングストップの励行。 ・排気量の小さい車両から使用する。 ・同一移動先への相乗り励行。	評価	目標に対して、23.4%増加し、目標未達成となった。 要因は、受入廃棄物の状況確認や工事量の増加に伴い、使用頻度が増えたことによるもの。
	年度末までの取組内容	引き続きガソリン使用量削減に努めるが、暫くの間静観する。
水使用量削減 ・水道水の適正使用 ・漏水のチェック	評価	目標に対して、71.7%増加し目標未達成となった。 要因は、晴天が続いたため粉塵対策として散水を強化したことによるもの。
	年度末までの取組内容	引き続き水使用量削減に努めるが、暫くの間静観する。
廃棄物排出量削減 ・廃棄物を分別回収し、リサイクルを推進する。	評価	目標どおり達成した。 要因は、廃材と金属類を分別回収しリサイクルしたことによるもの。
	年度末までの取組内容	このまま継続する。
地域清掃 ・地域清掃計画（班分け、スケジュール等）の作成と周知。 ・当社処分場及び処分場跡地周辺のゴミ拾い（毎週1回）を行う。	評価	目標どおり達成した。 要因は、計画の作成と周知が徹底したことによるもの。
	年度末までの取組内容	このまま、継続する。
積荷展開検査 ・手順の周知及び教育 ・朝礼で、検査担当者に対し展開検査の指示を的確に行う。	評価	目標に対して、8.3%増加し目標を達成した。 要因は、検査担当者に対し、朝礼で的確な指示命令を行ったことによるもの。
	年度末までの取組内容	このまま継続する。

8. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

以下のとおり、環境関連法の遵守状況をチェックした結果、違反はありませでした。

（2018年4月～6月の運用期間中）

① 年度毎に管理者による環境関連法規などの遵守状況の確認を行う。（7月実施）

② 毎月実務担当者による日常的な監視測定項目の実績を把握し遵守状況の確認を行う。

9. 代表者による全体評価と見直しの結果

実施日：2018年4月2日

当社は、2006年にISO14001の認証を取得し、これまで12年間にわたりシステムを構築・運用し環境活動に取り組んできたが、毎年の審査での指摘事項に対応していくにつれて、システムが複雑化・肥大化し、効率性や実効性の面で十分な機能を発揮することができなくなった。そこで、ISO14001の運用経験を生かし、事務量、コスト面を考慮して、EA21へ移行することを経営会議（2017年11月）で決定した。ついては、EA21への移行をスムーズに進めるために、環境管理責任者、事務局が中心となり各サイトの意見を尊重しながら手続きを進めていくこと。